

(様式2)

指定管理者制度導入施設の管理運営状況【対象年度:令和7年度】

※1～6:所管課記入、7:指定管理者記入、8～9:指定管理者及び所管課記入、10:指定管理者及び所管課記入(実施した場合)

所管部・課	建設部都市・まちづくり課(安曇野建設事務所)
指定管理者	一般財団法人 公園財団

1 施設名等

施設名	長野県烏川溪谷緑地	住所 電話 ホームページ	長野県安曇野市堀金烏川26 0263-73-0203 http://karasugawa.com/
-----	-----------	--------------------	---

2 施設の概要

設置年月	平成14年4月	根拠条例等	長野県都市公園条例
設置目的	住民福祉の増進に寄与することを目的として、貴重な自然環境の保護・保全に配慮し、一般住民に自然とのふれあい、自然体験・学習、レクリエーション、文化活動などの場を提供するため。 この目的達成のため、行政と市民との協働による緑地の管理・活動を実施。		
施設内容	水辺エリア:環境管理棟、トイレ、駐車場、園路、溪流園地、あづまや、展望台、ビオトープ 森林エリア:森林学習棟、あづまや、森林トイレ、駐車場、園路 開園面積:49.67ha		
利用料金	無料		
開所日	・管理事務所開所日:4/1～12/28、1/4～3/31(開所日は12/29～1/3) ・トイレ4箇所冬季閉鎖(12/1～3/31)		
開所時間	・管理事務所開所時間:8時30分から17時15分まで		

3 現指定管理者前の管理運営状況

期 間	管 理 形 態	管理受託者又は指定管理者等
～平成21年度	直営	—
平成22年度～24年度	指定管理	(一財)公園財団
平成25年度～29年度	指定管理	(一財)公園財団
平成30年度～令和4年度	指定管理	(一財)公園財団
令和5年度～令和9年度	指定管理	(一財)公園財団

4 報告年度の指定管理者等

指定管理者	(一財)公園財団	指定期間	令和 5年 4月 1日 ～令和 10年 3月31日(5年間)
選定方法	公募(応募者数:1)		

5 指定管理料(決算ベース)

令和 7年度(A)	令和 6年度(B)	差(A)－(B)	※(A):当該年度、(B):前年度(以下同じ)
32,756 千円	31,736 千円	1,020 千円	
	増減理由	光熱費等高騰対策による指定管理料の増加	

6 指定管理者が行う業務

・本緑地(備品等を含む)の維持管理、利活用に関する業務及びこれに付帯する業務 ・「烏川溪谷緑地市民会議」の運営、活動等に関する業務及びこれに付帯する業務

7 利用実績等

(1) 利用実績【指標:利用者数・利用件数・稼働率】

(単位:人、件、%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和 7年度(A)	2,950	3,040	2,640	7,380	14,370	2,800	1,780	1,740	600	640	580	970	39,490
令和 6年度(B)	2,450	3,440	2,400	4,600	12,690	3,380	2,120	1,870	670	620	580	860	35,680
(A)/(B)	120.4	88.4	110.0	160.4	113.2	82.8	84.0	93.0	89.6	103.2	100.0	112.8	110.7
	＜第1四半期＞ 第1四半期は、天候の影響を受ける場面があったものの、全体として、前年度並みからやや増加傾向で推移した。4月は雨天日が多かった一方、その多くが平日であり、土日の晴天率が高かったことに加え、平日の散策利用や夏鳥観察利用も安定していたことから、利用者数は増加した。5月は、気温条件に恵まれ中旬には好調な動きが見られたものの、上旬および下旬は前年を下回り、特にゴールデンウィーク終盤の悪天候の影響もあって、月全体の利用者数は前年を下回る結果となった。6月は月中盤の天候不順により一時的に利用が鈍化したものの、後半は夏日に近い暑さが続き、前年をやや上回る結果となった。これらのことから、第1四半期は休日の天候と平日の安定利用が、全体の利用者数を下支えたといえる。 (前年度比104.1%、340人増)												

(様式2)

増減要因等	＜第2四半期＞ 第2四半期は、全体を通して夏季の高温傾向と好天に恵まれたことを背景に、利用者数は前年を上回って推移した。7月は最高気温・最低気温ともに前年度より高く、水遊びに適した環境条件のもと、月初の週末から好調な出足となった。後半も暑さが続いたことで、利用者数は前年を大きく上回った。8月も引き続き水遊びに適した気象条件に加え、夏休み以降は川遊びや犬連れでの水遊びに関する問い合わせが多く、月を通じて安定した利用が見られ、前年を上回る結果となった。7月・8月ともに駐車場の混雑が懸念されたが、利用者の滞在時間が比較的短く、回転効率が良好であったことに加え、小野沢駐車場への誘導案内が機能したことで、大きな混乱なく対応できた。一方、9月は園内散策や犬連れでの利用は見られたものの、曇天の日が増え、川遊びには不向きな天候であったことから、利用者数は減少した。以上より、第2四半期は7月・8月の好調な利用が全体を牽引し、9月の減少を補ったことで、総じて前年を上回る堅調な結果となった。 (前年度比118.8%、3,880人増)
	＜第3四半期＞ 第3四半期は、全体として天候不順や気温低下の影響を受け、利用者数は伸び悩んだ。10月は終日雨天の日は少なかったものの、曇天や一時雨の日が多く、月の半分近くが不安定な天候となった。これに加え、前月比で気温が大きく低下し、肌寒さが強まったことで、出足に影響したものと考えられる。11月は天候に恵まれ、紅葉に関する問い合わせも多く見られたが、急激な気温低下の影響により、利用者数の大きな伸びにはつながらず、全体としては前年並みの水準にとどまった。一方で、隣接する国営アルプスあづみの公園のイルミネーションイベントに伴い、開園時間までの立ち寄り利用が一定の下支え要因になったとみられる。12月は前年同期より平均気温は高めであったものの、前半は冷え込みの厳しい日が続き、晴天率も低く、すっきりしない天候が続いたことから、利用者数は減少した。降雪による大きな影響は少なかったものの、利用増には結びつかなかった。以上より、第3四半期は、11月の利用は前年並みとなり一定の支えとなったものの、10月と12月は天候や気温の影響による落ち込みが見られ、全体として低調に推移した。 (前年度比88.4%、540人減)
	＜第4四半期＞ 第4四半期は、冬季らしい低温傾向が見られたものの、全体として晴天に恵まれ、利用状況は前年並みから前年を上回る水準となった。1月は、前年度より最高気温・最低気温ともに低かったものの、雨天日や降雪日が少なく、安定した天候により前年同等の利用者数を確保した。また、国営公園におけるイルミネーション開催に伴う平日の変則的な開園時間の影響により、近隣施設の散策を目的とした立ち寄り利用も一定数あったものと考えられる。2月も引き続き、気温は前年を下回ったが、雨天日・降雪日が少なく晴天に恵まれたことで、利用者数は前年並みで推移した。3月は、降雪がなく、積雪量も例年より少なかったうえ、月後半には気温が上昇して春らしい陽気となったことから、利用が大きく伸び、前年を大幅に上回る結果となった。以上より、第4四半期は、1月・2月の安定した利用に加え、3月の大幅な増加が全体を押し上げ、堅調に推移した。 (前年度比106.3%、130人増)

(2) 利用料金収入

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和 7年度(A)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和 6年度(B)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(A)/(B)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
増減要因等													

(3) 利用料金見直しの状況(前年度と比べて)

見直しの有無	見直した場合はその内容
有 ☒ 無	

(4) 開所日・時間の見直し等の状況(前年度と比べて)

開所日数	開所時間	見直しの有無	見直した場合はその内容
令和7年度(A):359日 令和6年度(B):359日	令和7年度(A): 8:30～17:15 令和6年度(B): 8:30～17:15	有 ☒ 無	

(5) サービス向上のため実施した内容

・ビジターセンターとしての機能強化策として、レクチャールーム(展示室)の剥製などの標本や解説を追加制作するとともに、本緑地の旬の情報、標本解説、園内ガイドを実施した。 ・ガイドを希望しない利用者のために、セルフガイドを作成・提供した(紅葉、冬芽、木の実、鳥の羽、樹皮、きのこ等)。 ・レクチャールーム(展示室)において、小さな子どもでも楽しみながら学べるよう、動物足跡スタンプラリーやクイズを実施した。 ・安曇野市や近隣の学校団体に対する環境学習対応を実施した。下見の際に希望する学習内容および実施方法を確認し、団体ごとのニーズに応じたきめ細かな対応を行った。荒天時には、雨天プログラムや出前講座の実施、時間短縮プログラム等の提供を行った。 ・ゴールデンウィークやお盆期間の繁忙期において、駐車場の円滑な利用を図るため、誘導員を配置し、誘導整理を行った。 ・日々の園内巡視により、園内情報や自然情報の収集、把握に努めた。その成果を、レクチャールーム(展示室)や園内でのインタープリテーションによる自然解説など、単なるガイドにとどまらない案内に活用した。 ・国営公園と連携し、ツキノワグマの出没情報等の共有を図った。 ・ホームページやSNSにて、イベント開催告知、ツキノワグマの出没情報、伐採作業等に伴う通行規制など、タイムリーな情報発信に努めた。

(様式2)

(6)その他実施した取組内容

・利用状況に応じてトイレ清掃を高頻度で実施したほか、手洗い場に生花を飾るなど、快適かつ清潔なトイレ環境の維持に努めた。 ・日々の巡視作業の実施時において、通行や利用の支障となる樹木、落枝、枯損木等を処置し、直ちに処理できない場合には通行規制等を行うことで、利用者の安全確保に努めた。 ・バーベキュー利用希望者には、火気を使用できないことを丁寧に案内するとともに、近隣のキャンプ場など、バーベキューが実施可能な施設を案内した。 また、火気の使用を確認した際には、利用者が不快とならないよう配慮しつつ指導を行い、後片付けの徹底に加え、野生生物対策、景観保全、環境保全への理解を求める取組や利用指導を実施した。
--

(7)利用者の主な声及びその対応状況

ご意見、要望	対応状況
○利用者アンケートでのご意見・ご要望等	
・土日開催で、子供と参加できるイベント(主に観察会)をもっと増やして欲しい。(昨年は、野鳥観察会、アニマルトラッキングに参加) ・あとの世代にも伝えていって頂きたいと思います。貴重な自然、生きもの、くらしぶりを教えて頂き、大変感謝。 ・ビオトープの水がなくなっていました。 ・野鳥がたくさん見られて素晴らしい。 ・山に住んでいる生き物をたくさん見られて興味がわいた。生き物のフンや本物の動物など、うんちもあっておもしろかった。 ・トイレもキレイで、いつも利用している。子ども達も大好きです。ゴミが落ちているのが残念に思った。 ・川あそびがしやすかった。展示も見やすく、小学生の子どもも楽しんでいた。解説までしていただき感謝。 ・管理事務所にある動物や昆虫の展示が良かった。コケテラリウムの展示も素敵だった。 ・資料がたくさんあり、興味深かった(本、はくせいなど)。道も整備されていて歩きやすかった。 ・いつもリフレッシュするのにお世話になっている。	・イベント参加者へのアンケートなどを参考に、イベントの見直し・改善を図っている。 ・烏川本流から流入する土砂によってビオトープが埋まってしまい、かいぼりや浚渫による定期的なリセットが必要であるため、県へ報告し、協議・情報共有を行っている。 ・巡視時などにごみを拾うほか、適宜、声掛けを行っており、「ごみゼロ」を目指し、今後も継続して実施していく。
○イベント参加者へのアンケートにおけるご意見・ご要望	
実施内容について	
・ネコノメソウなど植物や生物の詳しい講習は今後お願いしたい。有料でも良い。 ・かなり専門的で難しい所もあったが、勉強になった。無料ではもったいない。 ・自然のことを沢山知れることがすごくうれしいし興味がある。無料はありがたい。 ・多分この機会がなければ一生アブラムシをスルーしていた。 ・普段あまりふれる事がないテーマで大変楽しかった。フィールドワークもあり家族で楽しめた。無料でこの内容はとても充実していると感じた。 ・これまで知らなかった植物や虫が多く大変勉強になった。無料で充実した時間を過ごせた。 ・実際ヘビを触る事ができてよかった。ヘビとどう関わっていけばよいかよく分かった。話上手で子供もあきずに最後まで聞けて楽しめた。トカゲとヘビの違いが興味深かった。 ・とても分かりやすく楽しい講義内容だった。説明がとても分かりやすく、知っている植物でも知らないような詳しい内容について知れた良い機会になった。 ・講義と体験の内容がぴったり合っていて、今まで注目することがなかった対象の面白さを知り充実した時間であった。運営に必要であれば有料も可(～1000円)。時間はちょうど良い。 ・すばらしい講義だった。先生の知識、話しがすばらしく時間が足りないくらいだった。いつも無料なのが申し訳ない。 ・無料でここまで楽しい内容を催していただけてとてもありがたく思っている。 ・室内の話と現場の話とおりまぜてとても分かりやすかった。	・イベントに対するご意見・ご要望を踏まえ、次年度以降の更なる魅力向上に向けて、実施内容等を検討する。

(様式2)

・ただ見て教わるだけでなく、なぜ？どこに？何の？5W1Hで動物の行動などを知ったり、考えて足跡を探すのは食痕など楽しかった。	
今後取り上げてほしい題材、内容について	
(植物) ・森林エリアで樹木、木の実の観察会 ・紅葉について ・キノコ ・コケ (動物) ・ヒレンジャク、キレンジャク ・ミヤマモンキチョウ、ギフチョウなど高山蝶、・水の中での生き物 ・野鳥の生活、巣づくり ・ハチ、アリ ・ネズミ ・クマの生態について (その他) ・外来生物 ・地層、溪谷の成り立ちや石、岩など ・今まで取り上げたもの(2回目でよりよく分かる実感)	・多種多様なイベント開催に関するご意見・ご要望を頂戴し、次年度以降の開催に向けて実施内容等を検討する。

8 管理運営状況(実施状況及びそれに対する評価を記入) ※項目は施設の状況に応じ加除修正してください。

項目	指 定 管 理 者	所 管 課	評価
施設の目的に沿った管理運営	・園内利用においては、心癒される緑地を提供するため、スタッフの挨拶をはじめ、利用者への適切な案内を実施するとともに、気持ちよく過ごすことのできる環境づくりのため、園内清掃を徹底し、安全で清潔な利用環境の維持に努めた。特にトイレ清掃においては、スタッフが持ち寄った季節の生け花による装飾など、美化活動を積極的に実施した。 ・利用者の安全・安心を第一に考え、巡視の際には、支障木、支障枝、枯損木の除去を徹底し、利用者の安全確保を行った。 ・烏川の貴重な自然を守り、動植物の保全・育成活動を推進するため、緑地スタッフ一人ひとりのスキル向上に向けて、経験豊富なスタッフによる学習会を毎月開催し、知識の向上に努めた。 ・植物管理においては、経験豊富なスタッフの同行による作業を実施し、保全・育成の取組として、除去すべき植物、利活用すべき植物、動物・昆虫等が利用する植物などにきめ細かく対応するため、情報共有を図りながら維持・管理作業を実施した。 ・地元近隣の安曇野市をはじめとする学校団体による校外での環境学習活動の実施においては、河川や樹林等の緑地の自然資源を活用し、自然体験型環境学習の場としての利活用及び普及啓発に努め、質の高い環境教育プログラムを提供した。 ・近隣宿泊施設との連携による取組として、個人客や宿泊団体客への自然ガイドを実施し、安曇野の豊かな自然環境について学ぶことのできる機会を提供した。 ・夏期の川遊び利用における堰堤からの飛び込みに対しては、安全確保に向けて、飛び込み禁止看板の設置、利用者への指導、注意喚起に努めた。また、禁止行為であるバーベキュー利用を目的として来園されたお客様に対しては、丁寧な説明・案内を行うとともに、近隣施設を案内し、環境保全への取組について説明することで、理解を深める取組を行った。 ・障がい者就労の場の創出に向けた取組として、長野県セルブセンター協議会の協力により、園内美化活動の一環として、園路清掃や除草作業などについて3箇所の施設に協力いただいた。 ・市民協働の取組と地域連携を推進するため、定期的に市民会議を開催し、市民協働によるイベント開催、利用促進、情報収集を実施した。また、緑地内での市民協働による植物管理等の活動を支援した。 ・長野県が推進するクールシェアスポットへの登録により、省エネルギー対策活動に参加するとともに、夏期利用の促進を行った。 ・安曇野建設事務所と毎月実施している「連絡調整会議」を継続し、状況報告と今後の予定の共有を行うことで、連携しながら効果的かつ効率的な管理運営を図った。	・協定書、仕様書及び年度計画書に基づき、施設の目的に沿った管理運営を適切に実施していた。 ・園内、特にトイレ清掃の徹底については利用者からの評判が大変良い。 ・職員の自然環境及び動植物に関する専門性が高く、利用者からの評価が高い。	A

(様式2)

	・安曇野建設事務所との連携により、ツキノワグマの活動時期における利用者の安全確保のため、目撃情報やフィールドサインの確認による情報共有、利用制限区域の設定など、迅速な対応を行った。 ・草丈が高くなって見通しが悪くなる箇所の草刈りを行い、クマを寄せ付けない環境整備に努めた。		
平等な利用の確保	・ホームページや案内看板を通じて、本緑地の利用方法やルールを正確に周知した。 ・イベント開催にあたっては、プレスリリース、公共施設等へのチラシの配架、SNSやホームページによる情報発信を行い、受付開始時期を1か月前に統一することで、申込者の平等性を確保した。 ・緑地内での禁止行為(山菜・きのこの採取、昆虫採集)を目的とした利用者に対しては、環境保全の取組について丁寧に説明を行うとともに、後から来園する利用者にも配慮し、公園利用案内により周知を図った。 ・平等利用の観点から、利用者の声を幅広く収集することを目的とした「モバイルご意見箱」を継続して運用した。 ・園内利用マナー向上の取組として、愛犬家を対象としたマナー向上を呼びかけるポスターの掲示、マナー袋の配布、園地内でのマーキングを洗い流すためのマナーボトル(水)の貸出し、無駄吠えやリードを外しての川遊びの禁止に関する注意喚起等を行った。	・公式ホームページできめ細かい情報提供を行っていた。 ・イベント開催の際は、利用者の平等な利用確保に努めていた。 ・園内巡視を行う際に禁止行為を見つけたときは、利用者に対し丁寧な案内を心掛け、気持ちよく緑地内を利用できるよう配慮していた。 ・利用者の意見に常に耳を傾け、指摘に対し真摯に対応する姿勢が見られた。 ・愛犬家の園内利用マナー向上の取組を積極的に行っていた。	A
利用者サービス向上の取組	・ホームページを適宜更新し、自然資源情報やイベント情報の告知、SNSを活用した旬できめ細やかな情報提供に努めた。 ・イベントの実施にあたっては、緑地内の自然資源や環境資源を活用した企画内容を検討し、参加者の満足度が高いイベントの実施を目標とした。参加者の関心が高い動物や植物をテーマとした観察会に加え、著名な講師を招いた地域の歴史文化に関する学習会など、幅広いニーズに対応した。 ・イベント参加者へのアンケートを実施し、利用者のニーズや感想を収集した。把握した情報は、管理運営に反映するための判断材料として活用し、サービスの提供及び改善に努めた。 ・利用満足度の向上を図るため、レクチャールームにおいて来園者アンケートを実施し、利用者の意見を収集して管理運営に反映した。 ・イベント参加者の募集に際しては、松本市及び安曇野市の市政記者クラブの活用・協力により、毎回、プレスリリースによる募集記事及び開催記事の掲載に努めた(新聞等掲載24件)。 ・当財団が共同体代表として管理運営を行う国営アルプスあづみの公園にてチラシを配布したほか、安曇野市観光協会、図書館、公民館のほか、近隣の宿泊施設へもチラシを配布し、情報提供と参加促進に努めた。 ・春期及び夏期の繁忙期には、管理事務所スタッフ及び専門スタッフによる駐車場誘導を行い、円滑な運営に努めた。 ・長野県が推進するSDGsプロジェクトや信州環境カレッジへのプログラム登録を行い、周知を図った。	・公式ホームページや「X」できめ細かい情報提供を行っていた。 ・緑地の自然資源を活用した企画を多く取り入れ、幅広いニーズに対応したイベントを開催し、多くの参加者から好評を得ていた。今後も自然体験型環境教育の場として参加者から大いに期待されている。 ・緑地利用者及びイベント参加者のアンケートからニーズの把握に努め、業務改善等に反映させていた。 ・プレスリリースや安曇野市広報への掲載など参加者募集に関する情報発信に努めていた。 ・国営アルプスあづみの公園他、幅広くチラシの配布を行い、利用促進に努めている。 ・繁忙期には、臨時スタッフによる交通管理も含めた駐車場誘導を行ない、安全利用の確保に努めていた。	A
自主事業	・熱中症対策及び利用者の利便性向上を図るため、自動販売機を継続して設置した。 ・緑地の資源を活用し、初心者を対象としたコケテラリウムづくり教室の開催や、自然素材を活かした記念品等の販売を実施した。 ・里山資源の循環利用を図るとともに、収益化によって維持管理費に充当するため、落葉の販売を実施した。 ・近隣ホテル宿泊者を対象に、安曇野市の優れた環境や当緑地の魅力を体験していただくため、予約制によるガイドウォークを実施した。	・自動販売機を継続して設置し、利用者のニーズに応えた。 ・ワークショップ・イベント記念品・落葉の販売等を管理事務所展示品維持のために活用し、公園施設の維持及び充実に役立てた。 ・ツアーガイドの実施により、利用者により深い公園の魅力を伝えることができた。	A

(様式2)

職員・管理体制	・常勤職員：5名、臨時職員：2名、計7名 ・繁忙期には臨時的に誘導警備員を配置し、体制を強化した。 ・普通救命講習修了者やサービス接遇検定取得者を配置し、安全第一に丁寧な利用者案内、サービスの提供に努めた。	・緑地の管理業務を行うために必要な知識と技術を持つ、経験豊富な職員が配置されていた。 ・繁忙期には臨時スタッフによる駐車場誘導を行う等、安全かつ利用者にやさしい管理に努めていた。 ・緑地を心地よく安全に利用してもらうための職員配置を行っている。	A
収支状況	・収入金額：35,228千円 内訳：指定管理料 32,756千円、当財団他会計からの繰入金2,472千円 ・支出金額：35,228千円 本緑地の魅力を高めることによる、隣接する国営アルプスあづみの公園を含めた地域全体の活性化を目指し、地域植生や市民協働等の経験が豊富な職員を配置したところ、当初想定より人件費が高くなり、予算を超過した。 ・自主事業収入 118.9千円、支出 118.9千円。 公園利用者の利便性向上を図るため、自動販売機を設置した。また、窓口での記念品販売に加え、落ち葉の販売も行い、自主事業収入の確保に努めた。事業の実施に当たっては、収支のバランスを保ちながら、効率的な運営に努めた。	・人件費や光熱費等が高騰する中、利用者へのサービス低下に繋がらないよう配慮し、限られた予算で適切に管理運営が行われていた。	B
総合評価	・運営・維持管理においては、植物管理をはじめ、施設管理、利活用、市民会議活動に関する業務、環境学習プログラムの実施などを通じて、円滑な運営を行うことができた。 - 特に植物管理においては、緑地内の貴重な資源である希少植物の保全・活用を図り、自然資源を活用したイベントや環境学習プログラムを実施することで、地域の自然環境や長野県の豊かな環境について普及啓発を行うことができた。 ・展示施設においては、新たな写真や標本を収集・製作し、烏川渓谷緑地らしい野生生物をテーマとした展示解説に活用した。これにより、利用者に楽しんでいただくとともに、地域の豊かな自然環境について学ぶ機会を創出し、環境保全や自然保護の取組の重要性、並びに野生生物との関わり方等に関する普及啓発の一助となるよう取組を実施した。 ・利用者アンケートなどから、お客様から好意的な評価をいただいており、一定の水準を確保しながら、指定管理業務を実施することができた。	・利用者・イベント参加者へのアンケート調査から烏川渓谷緑地の運営の目的である「そこにある自然と触れ合う」ことができる場所として大変良い評価が得られている。また、安曇野市内および近隣市町村からは環境学習の場として不可欠な存在として認められており、環境学習の依頼も多い。イベントについても数少ない本格的な環境学習の場となっており、ファンも多い。公園管理だけでなく、動植物に高い専門性を持つ職員により独自性の強い個性的な都市公園の運営を行っている。引き続き良好な管理運営をしていただきたい。 ・指定管理者により提出された収支状況等資料から、各運営経費が高騰する中で効果的な管理運営の努力がなされていると判断できる。	A

＜評価区分＞ A:仕様書等の内容を上回る成果があり、優れた管理運営が行われている。
B:おおむね仕様書等の内容どおりの成果があり、適正な管理運営が行われている。
C:仕様書等の内容を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要である。
D:仕様書等の内容に対し、重大な不適切な事項が認められ改善を要する。

9 施設管理運営の課題

項 目	指 定 管 理 者	所 管 課
施設の管理運営の課題	・森林学習棟の使用に関する外部からの問い合わせが増加している。貸出しの可否、利用料金徴収の有無、貸出基準など、運用に関する整理・検討が必要である。 ・施設の経年劣化対策及び長寿命化対策が急務である。 ・園路、広場、ベンチ周辺など利用者の多い場所に位置し、近いうちに倒木・落枝が発生する可能性が非常に高い樹木のうち、大径木や急傾斜地等により指定管理者での対応が困難なものについては、利用者の安全確保を最優先に、速やかに緊急伐採等の対応をお願いしたい。 ・レクチャールームについては、剥製などの標本や貴重な展示品の劣化、ならびにカビの発生を防ぐため、空気調和システムの導入が必要である。	・森林学習棟の利用については、利用料に関する条例の改正等も含め、県と指定管理者で協議をしながら、貸出しについてのルールを検討していきたい。 ・現在、令和2年度策定の長寿命化計画見直しを実施している。 ・一般管理を超える伐採(台風・積雪等による倒木)については県が対応する。 ・令和3年度にエアコンを設置した。エアコン更新時に不足する空調の内容を検討し、改善に努めたい。

(様式2)

10 第三者評価で指摘された事項の管理運営等への反映状況(第三者評価実施年度の翌年度以降に記載)

【実施年月日:令和7年11月4日】

第三者評価における指摘・意見等	管理運営等への反映状況	
	指定管理者	所管課
【施設の目的に沿った管理運営】	・協定書、事業計画書に基づき、施設の目的に沿った管理運営を引き続き実施する。 ・国営公園と更なる連携強化を図り、情報共有等により利用促進に努める。 ・県、国営公園管理者との定期打ち合わせのほか随時情報提供、情報共有を行っており、更なる協力関係の構築により魅力づくり、情報発信を行う。 ・学校団体利用促進に向け、近隣自治体の教育委員会への働きかけ等を検討する。 ・園路沿いの見通しについては安全の確保、景観への配慮等考慮しながら対応を行う。	・管理事務所とともに、管理・整備に係ることについて国営公園と更なる連携強化を図り、情報共有等により利用促進に努める。 ・指定管理者、国営公園管理者との定期打ち合わせのほか随時情報提供、情報共有を行っており、更なる協力関係の構築により魅力づくり、情報発信を行う。
【平等な利用の確保】	・「モバイル意見箱」はとても有効な手段だと思うが、より幅広く意見を集めるのであれば、紙ベースのアンケートも実施すべき。 ・学習施設利用の対応のマニュアル化が必要。	・「モバイル意見箱」に加え、紙ベースでのご意見収集の取組について検討する。 ・学習施設貸出しのルールづくり、マニュアルづくりについては県と調整を図りながら整備する。
【利用者サービス向上の取組】	・複数のSNS利用やHPとの連携などが図られるとよりよい広報や広い認知につなげられるのではないかと。憩いの場・学びの場として情報発信をさらにしたい。 ・骨の企画展やカワネズミのイベントなど、魅力的なものが多いので、隣接する国営公園との共有はもちろんのこと、近隣自治体や観光施設を巻き込んで広報を進めていけると良い。 ・以前に親子ざると遭遇し、道を引き返したこともあるため、アンケート結果に記載されていた「サルと遭遇した際の対応」については、看板等での周知を検討してほしい。 ・繁忙期の駐車場の確保が課題。 ・駐車場が満車時の案内に更なる工夫が必要。	・複数のSNS利用や関係機関HPとの連携を通じ、憩いの場・学びの場としてきめ細かな情報発信に努める。 ・緑地の環境を活かした個性的な行催事等を近隣自治体や観光施設と連携して取り組むことで更なる魅力発信に努める。 ・大型野生動物対策は、園内情報施設及び看板等を随時更新し周知を図る。 ・限られたキャパシティでの駐車場運用であるため、対応策については県と情報共有しながら適正な利用環境維持に努める。
【自主事業】	・様々な制約のなかで工夫して実施されている。SNSの利用促進とあわせてより広く認知アピールされるとよいのではないかと。なお、自主事業における収支黒字は全体収支の改善にもつながるため、より積極的に検討されるとよいのではないかと。 ・新たなグッズや記念品が開発できると良い。	・SNSの活用により取組内容を広くアピールし、利用促進に努める。また、自主事業の積極的な取組により、全体収支の改善につなげられるよう検討し実施していく。 ・来園者にとって魅力ある記念品、新たなグッズの開発に取り組む。
【職員・管理体制】	・令和6年度大幅な収支赤字であるところ、人件費は総収入の約2/3を占めることから、収支計画を見直す一環として、人員体制や規模が適切かを長期的視点をもって検討する余地があるのではないかと。 ・烏川溪谷緑地の管理には、専門的な知識や経験が必要であり、その技術を次の世代に引き継いでいく必要性を感じた。	・人員体制、予算の適正化については県と協議しながら検討し取り組む。 ・烏川溪谷緑地の管理には、専門的な知識や経験、技術が引き継がれるよう、運営維持管理に関するマニュアルの整備、データ化による継承を検討する。

(様式2)

【収支状況】 ・令和6年度は自主事業を除いた収支が赤字となっており、指定管理者の独自財源を充てることにより収支均等になるよう調整されている。これより以前の年度から、あるいは将来計画においても収支赤字の状況であるならばそれは持続可能性の観点から望ましいとはいえず、収入もしくは支出の規模及び内容について将来的に見直す余地があるのではないかな。 ・草刈りや伐採が予定数量では収まらないとのこととで、その分予算的に厳しくなっている。 ・公園内や隣接する樹木の倒木や落枝などへの対応により、多くの管理経費が必要となっている。 ・施設の老朽化が進む中で、適切な管理運営ができています。	・職員が経験を積むことができ、環境について学べる公園であるため、赤字部分の人件費について独自財源を充てることは、人材育成への投資として考えているが、事業収支状況を県と情報共有し、必要に応じ協議、検討する。 ・公園緑地の適正な維持管理に向け、県と情報共有、協議、検討する。 ・引き続き施設の老朽化対策について、県と情報共有し、協議、検討しながら適切な管理運営に取り組む。	・人件費については「指定管理者制度における賃金スライド制度」を活用し、賃金上昇に対応していく。また、効果的、効率的な運営維持管理ができるように指定管理者と協議していく。 ・台風・積雪等による倒木など、気象原因等により通常管理を超える伐採については県が対応をする。 ・令和7年度から、公園施設の長寿命化対策の見直しをしており、施設再編を含め、適切な施設更新に努める。
【労働条件】 ・屋外での作業が多いと思われるので体調管理を徹底してほしい。 ・ケガ・虫刺され等の危機管理の更なる徹底が必要。 ・職員間のコミュニケーションの確保が必要。	・体調管理、ケガや虫刺され等の発生防止に向けて安全衛生委員会及び朝礼等を通じ、引き続き安全衛生管理を徹底して取り組む。 ・スタッフ間の情報共有の徹底により、良好な職場環境整備に努める。	
【モニタリングの実施状況】 ・チラシ・パンフレットを見てくる人が少ないとのことなので、チラシやパンフレットの配布場所等の検討が必要。 ・通りがかりで知った方が多い一方、チラシや、パンフレットで知った方の割合が少ないため、広報のやり方を工夫してみてもよいのではないかな。 ・利用・イベント参加者の意見を集約できている。 ・良い意見だけでなく苦情等の集約が必要。	・限られたスタッフ体制の中で、より効果的な配布場所、広報手段等を検討していく。 ・今後も緑地利用者、イベント参加者の意見を取り入れながら良好な利用環境の維持管理に努める。 ・苦情についても集約を行っており、利用者の意見を取り入れながら良好な利用環境の維持管理に努めていく。	
【総合評価】 ・日常の業務運営については協定書、仕様書、計画書に基づき適切に運営されている。 ・地域の豊かな自然環境について学ぶ機会を創出し、環境保全や環境保護の取組の重要性や野生生物とのかかわり方など、烏川渓谷緑地ならではの魅力が多く、素晴らしい運営管理がされている。 ・利用者アンケートからも、良い意見が多く、十分な管理が行われている。	・地域の豊かな自然環境について学ぶ機会を創出し、環境保全や環境保護の取組の重要性や野生生物とのかかわり方など、烏川渓谷緑地ならではの魅力を発信し、利用者満足度の高い運営・維持管理に努めていく。	